

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	高齢者健康相談事業	会計	介護保険	事業No.	269	施策順No.	35-048
事業種別	政策・その他	予算科目		5-1-2-10-21			
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり	課等名		保健課			
施策	35 高齢者福祉の推進	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的 は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象 誰、何に	65歳以上の市民							A:十分達成した B:どちらかといえど達成した C:どちらかといえどできていらない D:ほとんど達成できていない	
		具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度			
事業の目的 は「対象」を「意図」した状態にすることです	意図 対象をどう変えるか	65歳以上の人口 人		28305	29440	29677	31100			
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 目標	22年度 実績	23年度 目標	目標達成度	
22年度の目標達成度に対する振り返り 【政策的事業のみ評価】		・ほつ湯アップルにおける健康相談件数 人	9251	9423	16875	10000	17491	10000	B	
		・いきいきリハビリ等高齢者対象事業での健康相談	20193	20682	19716	21000	20429	21000		
高齢者の場合は、事業に参加する機会をとらえての相談が、受け入れもよく利用しやすくなっていることから、今後も継続実施していく。										

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度 (仕組み)説明	高齢者の心身の健康に関する相談に応じて、健康増進や疾病予防のために個人の生活に合わせた指導や助言を行う。 いきいきリハビリ、健脚大学、高齢者学級等高齢者を対象とした事業の中で、随时相談に応じる。							
22年度 事業内容	事業内容			名称		活動量・単位		
	1 健康増進施設ほつ湯アップルにおいて看護師が常駐して健康相談を行う。 2 高齢者を対象とした事業では、隨時健康相談を実施する。 3 特定高齢者に選定された口腔ケアの必要な高齢者に対して歯科衛生士による健康相談を実施する。			1 健康相談実施延べ人数 2 口腔ケア指導人数	ほつ湯アップル健 康相談 17,491人 各種健康相談 20,429人 口腔ケア 96人			
23年度 実施計画	1 健康増進施設ほつ湯アップルにおいて看護師が常駐して健康相談を行う。 2 高齢者を対象とした事業では、隨時健康相談を実施する。 3 特定高齢者に選定された口腔ケアの必要な高齢者に対して歯科衛生士による健康相談を実施する。			1 健康相談実施延べ人数 2 口腔ケア指導人数	ほつ湯アップル健 康相談 人 各種健康相談 人 口腔ケア 人			

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項	18年度まで老人保健法で実施していた65歳以上の相談事業は、19年度から介護保険介護予防事業に移行した。 国25% 県12.5% 市12.5% 1号保険料20% 2号保険料30%
	特 定 財 源	国庫支出金 県支出金 起債 その他	397 199 476 517 計 (A)	207 103 248 268 826		
正規職員所要時間			2,500			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			8,940			
トータルコスト A+B			9,766			

4 事業に対する市民や議会の意見

なし

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が心身ともに健康を保つ	施策の成果指標又はムース指標	心身ともに健康であると感じている市民の割合 %
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り 後期に向けた課題	心身の健康に関する相談に応じ、健康の維持増進および疾患の早期発見、治療の一助となっている。 いつでも気軽に相談できる体制づくり。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り 後期に向けた課題	相談内容が多岐にわたっており、それぞれの生活や価値観に合わせた助言につとめてきた。 関係機関との連携を図り、的確な支援を行う。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてきましたか	4年間の振り返り 後期に向けた課題	事業費のほとんどは、保健師・看護師・歯科衛生士等スタッフの人工費であり、削減は困難。 あらゆる保健事業において、随時健康相談を実施することにより、人件費の削減につながる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り 後期に向けた課題	健康相談は保健事業の一つとして法律で定められており、市が実施、責任の主体であり、事業費も負担すべきである。 今後も事業継続により、市民が心身ともに健康を保持つことができるような体制づくりをすすめる		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してきましたか)	4年間の振り返り 後期に向けた課題	相談内容によっては、地域包括支援センターや南信地域活動支援センター等につなげて、さまざまな職種による支援がえられるようにしてきた。 ①地域包括支援センター、南信地域活動支援センター ②相談者を紹介し、専門機関へつなげる 関係機関との連携により、問題解決に向けた支援を継続する。		
全体を通じて	4年間の振り返り 後期に向けた課題	心身の不安について相談される市民が増加しており、ニーズが高い事業である。 あらゆる保健事業において、随時健康相談を実施する体制づくり		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--